

水道の絆は 全国に

西日本豪雨で断水した広島へ 給水タンク車で応援給水



今年は大阪の地震をはじめ、夏から台風がいくつも襲ってきて、あらためて自然の猛威を思い知る年になっています。西日本豪雨の際には、連日、テレビ報道で被災地の様子が映されていましたが、岡山や広島では、崖崩れで水道管が破裂し、浄水施設が被災するなどして長期間にわたり断水状態を強いられました。生活するうえで1日たりとも絶やせないのが、水です。今回のように被災地が断水した場合、全国の水道事業者のネットワークでは、すぐに応援給水が展開されます。

局では、7月18日から22日まで、広島県三原市へ、職員延べ8人を派遣し応援給水を行いました。

被災の爪痕残る中 公園で給水活動

派遣初日、先行して応援給水を行っていた自治体から引き継ぎを受け、本郷町あおぞら公園で給水活動を行いました。給水拠点に向かう道中には、傾いた電柱や陥没した歩道など、被災の爪痕が残っていました。被災による影響から、じゃ口から出る水は僅かという状況が続いていたため、生活用水としての給水活動を続けました。派遣3日目になる



と、じゃ口から勢いよく水が出るようになり、ようやく各戸で生活用水が使用できるようになりました。た

災害対応へ応援協定締結 もう一重の安心を

8月20日、川西市上下水道局は第一環境株式会社と「災害時における応急復旧等業務の応援に関する協定」を締結しました。

この協定により、災害による上下水道施設の異常が発生した場合には、第一環境株式会社から応急給水や広報活動などの支援を受けることが可能となり、迅速な対応や施設の早期復旧につなげていきます。



だ、飲料水としての使用は制限されていたため、引き続き給水活動を行いました。三原市の必死の復旧活動により、派遣4日目には災害対策本部より復旧の見通しがたったとの指示を受け、22日をもって、無事活動を終了することができました。皆さんお一人おひとりが日頃から飲料水の備蓄を進めていただくことはもちろんですが、万一、川西市が被災し、断水になったときには、全国から応援給水車が駆けつけてくれます。水道事業者の間では、「お互いさま」の精神がまだまだ生き続いています。これもひとつの災害への備えになっています。